

死刑制度の問題点を考える

－教誨師から見た死刑－

死刑囚6人との対話が始まる。



©「教誨師」members

きょうかいし

映画「教誨師」

・ 予定プログラム

① 映画「教誨師」の上映

(上映時間 1 1 4 分)

② 対談

聖イグナチオ教会

ハピエル・ガラルダ神父

大森 顕 弁護士

(死刑制度廃止実現本部事務局長)

・ ガラルダ神父 Profile

上智大学名誉教授、聖イグナチオ教会司祭

1931年：マドリッド生まれ（現在94歳）

1958年：来日

1994年から府中刑務所の教誨師

2000年から東京拘置所の教誨師

2018年：瑞宝小綬章授章

(府中刑務所の教誨師活動による)

教誨師(きょうかいし)とは

教誨師は、刑務所や少年院などの矯正施設で、受刑者・在院者・被収容者に対し、特定の宗教を強制せずに宗教的教えを基盤とした人生観や倫理観を語り、心の安定と更生を支援する民間の宗教者である。

教誨の対象には死刑囚も含まれ、刑務官を除き、死刑の実相を知るほとんど唯一の存在である。

2026年8月29日

午後1時から4時まで

弁護士会館3階301会議室

(東京都千代田区霞が関1丁目1番3号
弁護士会館3階)

どなたでも参加可能です。
入場無料・事前申込不要です。



主催 東京弁護士会 共催 日本弁護士連合会 (予定)

教誨師とは……受刑者に対して道徳心の育成、心の救済につとめ、彼らが改心できるよう導く人。

わが国ではおもに諸宗教の聖職者がボランティアでその任にあたる。

なぜ、生きるのか。

牧師の佐伯は、半年前に着任したばかりの教誨師。彼が面会するのは一癖も二癖もある6人の死刑囚。真剣に思いを吐露する者もいれば、くだらない話に終始する者もいる。一方の佐伯は彼らに寄り添いながらも、自分の言葉が本当に届いているのか、死刑囚たちが心安らかに最期を迎えられるよう導くのは正しいことなのか苦悩する。その葛藤を通し、彼もまた自らの人生と向き合うことになる…。ほぼ全編が教誨室という限られた空間での会話劇ながら息つく暇もなく、時にユーモアを交えて展開される魂のぶつかり合い。次第に浮き彫りとなるそれぞれの人生、そして人間の本質。“死”の側からとらえた強烈な“生”の物語が誕生した。



大杉 漣、最初のプロデュース作にして最後の主演作

主演の佐伯に大杉漣。その膨大なセリフ量とユニークな内容ゆえ、「役者にケンカを売ってるのかと思った」と評した脚本を全身全霊賭けて体現、圧巻の存在感を見せる。対する死刑囚役に光石研、烏丸せつこ、古舘寛治といったベテラン俳優や映画初出演となる劇団「柿喰う客」の玉置玲央らが扮し、限りある命を持つ者同士、激しい火花を散らす。監督、脚本は死刑に立ち会う刑務官を描いた『休暇』(08)の脚本を手がけた佐向大。

教誨師

大杉 漣 玉置玲央 烏丸せつこ 五頭岳夫 小川 登/古舘寛治・光石 研 | エグゼクティブプロデューサー:大杉 漣 狩野洋平 押田興将 | プロデューサー:松田広子 | 撮影:山田達也
照明:玉川直人 | 録音:山本タカアキ | 美術:安藤真人 | 衣裳:宮本茉莉 | ヘア・メイク:有路涼子 | 編集:脇本一美 | 助監督:玉澤恭平 | 制作:古賀奏一郎 | 監督・脚本:佐向 大
製作:TOEKICK★12 ライブラリー・ガーデン オフィス・シロウズ | 製作プロダクション:オフィス・シロウズ | 配給:マーメイドフィルム コピアボア・フィルム | 宣伝:VALERIA マーメイドフィルム

きょうかいし

2018年 | 日本 | カラー | 114分 | スタンダード(一部、ヴィスタ) | ステレオ | ©「教誨師」members

<http://kyoukaishi-movie.com/>

2026年8月29日(土) 午後1時～4時

弁護士会館3階 301会議室

—— 入場無料・事前申し込み不要 ——

問合せ先 東京弁護士会人権課 03-3581-2205